

## 計算書類に対する注記

### 1 重要な会計方針

固定資産の減価償却について  
有形固定資産については定率法で減価償却を行っている。  
なお、10万円以上20万円未満の資産は、3年間均等償却による方法を採用している。

#### 資金の範囲について

資金の範囲には、現金・預金、未収金、前渡金、立替金、未払金、未払費用、前受金、短期借入金、及び預り金を含めている。なお、法人設立時の資金の範囲は現金・預金に限定していた為に一部の負債は正味財産の増減項目として処理している。  
その為に次項に記載する収支差額の計算上は注書で記載の通りこれらを控除している。

### 2 次期繰越収支差額の内容は次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金・預金	5,715,642	5,472,837
未 収 金	4,987,310	5,275,850
前 渡 金	0	75,527
立 替 金	0	28,550
合 計 ( 1 )	10,702,952	10,852,764
未 払 金	6,558,217	4,199,998
未払費用	0	901,328
前 受 金	1,952,251	2,061,592
短期借入金	-90,660	-90,660
預 り 金	410,566	1,056,023
合 計 ( 2 )	8,830,374	8,128,281
次期繰越収支差額(1-2)	1,872,578	2,724,483

(注) 法人設立時に存在していた資産・負債の金額のうちで下記に記載しているものは設立年度においては正味財産の増減項目として処理している。そのため各年度末の該当の勘定残高からこれらの金額を控除した金額を収支差額の計算の対象としている。

未払金設立時残高 584,627円  
短期借入金設立時残高 1,090,660円  
預り金設立時残高 403,624円

### 3 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物付属設備	1,025,850	538,387	487,463
器 具 備 品	1,386,823	916,353	470,470
合 計	2,412,673	1,454,740	957,933